

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)藤沢市亀井野福祉施設計画	階数	地上3F
建設地	藤沢市亀井野字不動上513-1,456-18,512-1の一部	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居専用地域/第一種住居地域	平均居住人員	70人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2016年8月 予定	評価の実施日	2015年6月1日
敷地面積	1,691 m ²	作成者	コーナン建設(株)
建築面積	741 m ²	確認日	
延床面積	2,115 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 0.9</p> <p>S: A: 3.0 B+: 1.5 BEE=1.0 B-: 0.5 C: 0</p>	<p>標準計算</p> <p>30% 60% 80% 100% 100%超</p> <p>建設 修繕・更新・解体 運用 オンサイト オフサイト</p> <p>参照値 100%</p> <p>建築物の取組み 90%</p> <p>上記+ 以外の 90%</p> <p>上記+ 90%</p> <p>0 46 92 138 184 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p>

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 2.5</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 2.7</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 2.8</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.0</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 3.3</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.7</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.1</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>周辺は戸建住宅や小さなアパートが建つ静かな住宅地である。それに対し、当計画建物はかなり大きな施設となる為、周囲に圧迫感や威圧感を与えないような配慮を行う。</p>		<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>老人ホームは高齢者が生活する居住空間となるので、良質な集合住宅なみの遮音性能や採光を確保する。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>将来的に変化するニーズに対応出来るよう、EV階段室等のコア部分を除いた内壁は全て乾式とする。高齢者・身障者が利用しやすいように、段差無しはもちろんのこと、各部屋の出入口扉を全て引き戸とし、十分な開口幅、廊下幅を確保する。また居心地の良い居住室、共用空間を設ける。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>建物は周辺に対して威圧感を与えないよう、道路から大きく後退し、道路と建物間に十分な緑地を設け周辺の景観にも寄与する。またプライベートエリアにも十分な緑地を設け、建物利用者にとって居心地の良い中庭空間を設ける。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>建物は住宅なみの断熱性能を確保し、サッシもすべてペアガラスとする。また各設備機器もコストを踏まえた上で、出来るだけ高効率なものを採用し、ほぼ全ての照明器具をLEDとする。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型便器の設置。有害物質やフロンを含まない建材の使用。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>建物周囲は大きく空地をとるように配置し、日影や風害、心理的な圧迫感など建物が隣接地に与える影響を少なくする。その他、前面道路の拡幅、雨水貯留槽、十分な駐車場と駐輪場を確保し、地域インフラへの負荷を考慮する。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

LC0₂の算定条件等については、「LC0₂算定条件シート」を参照されたい